

百歳賀寿 末永くお元気で

百歳を迎えられた2人へ、福島県、田村市、田村市社会福祉協議会から賀寿や祝金などが贈られました。

●宇田 登貴子さん

船引町船引の宇田登貴子さんが、1月20日に満百歳を迎えられました。

趣味は料理、裁縫、物づくりで、若い頃には5円玉や50円玉を使った置物づくりに励まれ、自宅には宝船や五重塔などの丹精込められた作品がたくさん飾られています。手先の器用な登貴子さんの長寿の秘訣は常に頭と体を使ってきたことだそうです。



●石井 金芳さん

船引町南移の石井金芳さんが、1月25日に満百歳を迎えられました。

趣味は読書で特に歴史の本はよく読まれ、孫やひ孫に聞かせていたそうです。

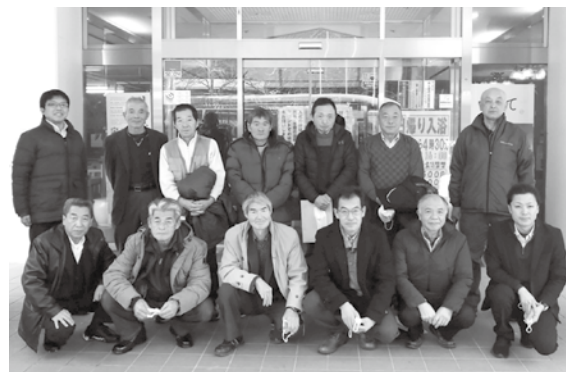
家族は「ひ孫が小さい頃から送迎などの面倒をみてくれた。駅伝で活躍するひ孫の成長を励みにしてきたことが長寿の秘訣」と話します。



葉たばこ研修会 5年産の耕作へ、生産技術を学ぶ

1月26日～27日、船引町たばこ耕作振興協議会の研修会が、二本松市のあだたらふれあいセンターで開かれました。講師に南東北たばこ耕作組合技術部長の吉田守さんをお招きし、葉たばこの4年産の総括と5年産の耕作へ向けて、生産技術を中心に講演いただきました。

世間の状況により、葉たばこ耕作は厳しさを増していますが、産地として、耕作者、販売者、消費者、周りの皆さんが共感できる環境づくりを基本に、品質向上に取り組めます。



バリアフリー 船引駅前に音声案内装置が設置されました

「視覚障害者用音声案内装置」は、点字表記の案内板に加え、センサーが人を感知すると、電子音と音声でバスやタクシー乗り場、駅周辺を案内します。

株式会社ラジオ福島が毎年実施している、通りゃんせ基金キャンペーンで寄せられた浄財を活用し、設置されたもので、同社から田村市へ寄贈いただきました。



田村

ゆさと
めと

3

たむらほつとニュース

No.1



Jesse Cade
ジェシー・ケイドさん
(アメリカ合衆国
テキサス州出身)
田村市に来て4年目

故郷は心のある場所

年末年始の休暇中、神戸、大阪、京都を訪れる機会がありました。楽しい休暇で、それぞれの都市ですばらしい時を過ごしました。しかし、田村市に帰ってくると、旅行している時よりもうれしい気持ちになっていました。1週間の旅行でしたが、田村市を本当に懐かしく感じました。田村市内のお店、近所、回転寿司などで会ういつも私を笑顔にしてくれる大好きな生徒たちに特に会いたいと思いました。旅行から田村市に帰った時に感じた幸せな気持ちを表現する、「Home is where the heart is.」という英語の言葉があります。私が考えたその言葉に近い日本語の訳は「家は心が住んでいるところ」です。

私はトルコのアンカラという、地方の小さな地域で育ったので、長い間トルコが私の故郷だと感じていました。アメリカにいた時でさえ、自分がテキサス州の出身だとは思っていませんでしたし、その家では、トルコを思い出すことはありませんでした。しかし、日本に来た時、田村市は幼少期に育った故郷にとても似ていました。私の大好きな日本の場所は田村市だと言うと、それを聞いた人たちは驚いてそれを信じてくれませんが、本当のことですから信じて欲しいです。田村市には富士急ハイランドや旭山動物園はありませんし、東京スカイツリーやマクドナルド（生徒たちは田村市にマクドナルドが必要だと私によく話してくれます）もありません。私は生徒たちに、他の都市にあるそれらの施設やお店は確かにカッコイイので、市内にあるといいものかもしれませんが、それらがなくても田村市は特別だと話しています。田村市の人々は親切で、温かく、フレンドリーなので、私は誰にでも



手を振ってあいさつすることができず、そうすると笑顔で手を振って返してくれます。他の場所にはない、安心で落ち着いた雰囲気。田村市にはあります。私はまだ26歳ですが、世界中のたくさんの国を訪れて、いろいろな都市を見てきました。田村市は特別だと言う私の言葉をどうぞ信じてください。

「故郷は心のある場所!」。皆さんの愛情や温かさのおかげで、田村市を「故郷」と心から呼ぶことができます。田村市にいる間（長く続くことを願っています）、お世話になりますので、よろしく願います。

広告欄 : Advertisement

有料広告募集中

問い合わせ…総務部 総務課 (☎0247-81-2117) へ